

統一化案を基にした超音波検査構造化レポートシステムの開発

○横井 英人¹⁾, 尾藤 茂²⁾, 竹居 和子²⁾

千葉大学医学部附属病院 企画情報部¹⁾, 株式会社シーフィックソフトウェア²⁾

1. はじめに

本学会では「各臓器・各部位におけるチェック項目と表現法の統一化(案)」(以下統一化案)の策定が精力的に進められている。画像検査レポートシステムにおける標準化および構造化はレポート内容の質向上・統計処理の促進のために最重要課題であり、この統一化案は有用なものであると思われる。我々は本案を基にした超音波レポートシステムを開発し、その実装に際して必要な要件について考察したので報告する。

2. 目的と方法

構造化レポートを実現するためには標準とされた用語や構造に基づくインターフェースである、テンプレートを準備する必要がある。我々はフルモダリティ PACS と連動したレポートシステム上に「統一化案」を基にした超音波レポートテンプレートを構築することとした。本システムはテンプレートを Web ブラウザ上に展開し、モダリティや検査手技ごとにテンプレートを準備することが可能である。

3. 結果と考察

予め準備した項目からユーザーが必須と思われる項目を指定することにより、循環器系や腹部系などの臓器別、検診用や精密検査用などの目的別レポートテンプレートに展開することが可能となった。また、統一化案の実装により、項目の情報粒度を統一することが出来た。一方で、統一化案ではコードが定義されていないため、今後のバージョン管理方法に疑問が残った。また、構造化データの下位層の有効無効制御や繰り返し項目の扱い、より専門化された詳細情報の扱いなど、システムへの実装上の課題もいくつか発見された。我々は、従来から心エコー等の専門分野に特化したレポートテンプレートを作成してきたが、構造化を目指す場合、深い階層及び多数の選択肢をもった項目入力の簡便化や、空白であった項目の表示方法など、実装上容易でない例を多々経験した。このような経験を含めて、よりコンピュータシステムと親和性の高いレポート構造を検討していきたい。